みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.161

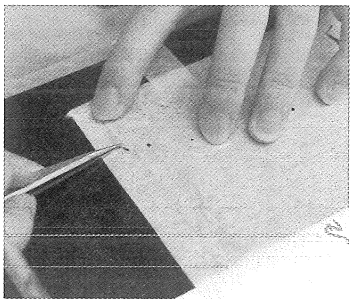
令和2年4月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930－33－4666
FAX0930－33－4667

◆博物館NEWS

ユネスコ「世界の記憶」遺産 朝鮮通信使資料の修理事業が完了！

2月5日（水）、県や町の補助を受けひどい虫食いや汚れを補修していた「小笠原文庫」の朝鮮通信使資料「対州御在館中日記（一冊）」の修理事業が完了し、無事所有者（育徳館高校錦陵同窓会）あて引き渡されました。

高度な装潢術による修理で人類の宝を守ることができました。



▲虫損孔へ同質紙を補充修理する様子
（修理技術機関 国宝修理装師連盟「宰匠（筑紫野市所在）」提供）

新型コロナウィルス感染拡大防止対応に伴う博物館の運営について

3月期の新型コロナウィルス感染拡大防止対応に係る臨時休館や催事の中止・延期対応については皆さまのご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

4月以降の観覧再開や催事につきましては対応が確定次第、館のHPや関係者連絡等により周知・対応を図ってまいりますので宜しくご理解・ご協力の程お願い申しあげます。

歴史を学ぼう！文化に触れよう！ 歴史講座受講生募集！

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。

受講を希望される方はお気軽に博物館までお問合せください（継続して受講を希望される方の申込みは不要です）。

なお、各講座では毎回、資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

講座内容のご紹介

【漢詩紀行講座】
●講師　宮原 加代子 先生
●内容　日本の歴史と風土の中で生まれた〝日本漢詩〟とその詩情と余景を鑑賞します。漢詩の基礎も学習しますので、漢詩に興味をお持ちの方の参加を歓迎します。辞書・筆記用具をご持参ください。
●実施日　毎月第1土曜日　午前9時30分～

【古典かな講座】
●講師　宮原 加代子 先生
●内容　万葉仮名で学ぶ古典文学の観賞と手習いの講座です。今年度は「昔ばなし」の典拠とされる『宇治拾遺物語』などをとりあげます。
初めての方も歓迎です。筆記用具・用紙などをご持参下さい。
●実施日　毎月第3土曜日　午前9時30分～

【古文書講座】
●講師　外部講師
●内容　江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。
●実施日　毎月第2土曜日　午前10時～

【みやこ学講座】
●講師　当館学芸員
●内容　「みやこ町・豊前地方の自然と文化遺産」をテーマに、ゆかりの話題を交え関連学習を進めます。郷土の歴史についての講義はもちろん、実際に現地（遺跡やゆかりの地など）を歩き・見て・触れる体験型学習も行います。
●実施日　毎月第4土曜日　午前10時～

＊見学会等は開催の都度、連絡します。

▲参考：みやこ学講座における現地見学会の様子
現場・現物からの発見・着想を大切にします

◆講座・教室・催し物ガイド

4月の歴史講座【仮予定】

【漢詩紀行講座】　4月4日（土）　9時30分～
【古文書講座】　4月11日（土）　10時～
【古典かな講座】　4月18日（土）　9時30分～
【みやこ学講座】　4月25日（土）　10時～

※新型コロナウイルス対応に伴い、日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

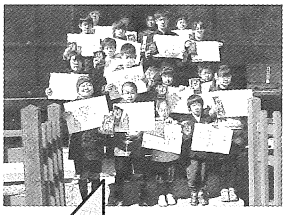
2月の業務日誌から

昨年の大会から、特選句に郷土の先人「小宮豊隆」、彼がモデルの漱石小説の主人公名「三四郎」、俳号「蓬里雨」を賞の名に冠し、表彰しています。今年も賞名にふさわしい傑作が集まりました。

★小宮豊隆賞（優れた研究句）
夏の風おちち飲んでる仔牛の目　行橋北小三年　吉原 ゆうか
朝霧やダム湖をのぞく小鹿たち　伊良原中二年　今富 星南

★三四郎賞（青春情景句・成長句）
かんせいがひびきわたるよはつおよぎ　豊津小　三年　しばお さくや
もぐりこむこたつという名のブラックホール　育徳館中三年　金子 彩人

★蓬里雨賞（伝統句・蕉風句）
はつげいこ足を大きくまえに出す　伊良原小一年　中しま あんず
秋夕焼真っ赤に染まる渡月橋　新津中　二年　境 永遠



23日（日）「第14回三重塔まつり」が開催され多くの皆さんにご来場頂きました。少年少女俳句大会表彰式では、一万を超える応募句から入賞した皆さんが表彰されました。
ご応募・ご来場頂いた皆さん、有難うございました！

みやこの歴史発見伝 124
令和とその時代⑤

町名から探る「みやこ」の歴史

―京、京都、宮子、美夜古、宮處、みやこ―

平成の大合併から14年

平成18年3月20日に「みやこ町」が発足して先月で14年を迎えました。合併に際して新しい町名の選考時には様々な名前がその候補として挙げられましたが、最終的には「令和」の歌が詠まれた奈良時代に、この地域の郡名として用いられた「京都郡」の「みやこ」が町名として採用され、現在に至っています。

このように奈良時代の郡名を新しい町の名に採用した例は、ほぼ同時期に合併した「上毛町」等でもみられ、古代の郡名がその地域の人々の意識に、いかに深く浸透してきたかがわかります。「みやこ」は「中心となる町」という意味をもつともいわれますが、今回は私たちに最も馴染み深い町名「みやこ」について、文献資料をはじめ、最新の発掘調査出土資料などから詳しくご紹介いたします。

文献資料にみる「みやこ」

「みやこ」の名がはじめて文献に登場するのが、「日本書紀」景行天皇12年9月5日条にみられる「天皇、遂に筑紫に幸して豊前國の長峡縣に到りて行宮を興てて居します。故、其の處を號けて京と曰ふ。」という記載で、「京」の字が充てられています。これとは別に豊前国風土記の逸文には「宮處郡」という記述がみられます。この他、九三四年頃まとめられたとみられる「倭名抄」という「漢和辞典」には「美夜古」の記載がみられ「令和とその時代①」でご紹介した日本霊異記には「宮子」と表記されています。

出土遺物にみる「京都郡」

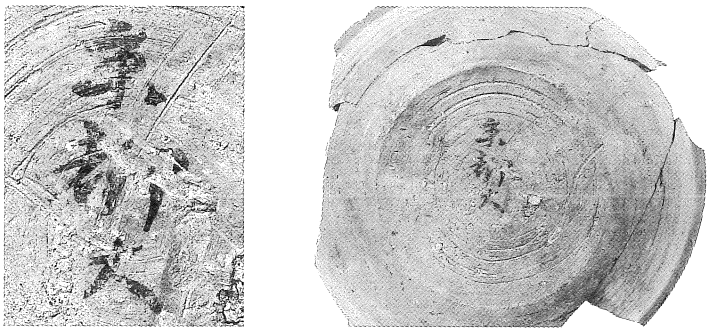
先にご紹介した文献資料はいずれも「紙」に記されたものですが、「令和」の歌が詠まれた奈良時代は「紙」がまだ非常に貴重なものであったため重要な文書を除いた多くの文書は「木簡」とよばれる薄い木札に墨で書かれることが一般的で、誤字などは「消しゴム」代わりに小刀で削っていました。

平成元年（1989）福岡市の平和台球場跡で行われた発掘調査で「みやこ」の歴史を決定付ける大発見がありました。この球場の地下には奈良時代に外国からの使者を接待する迎賓館の「鴻臚館」があったことが想定されていましたが、この時の発掘調査で「京都郡庸米六斗」と書かれた木簡が複数枚出土しました。

この木簡は豊前国府（みやこ町国作）から税として納入された米の荷札とみられ、8世紀前半から中頃の時期であることが判明しました。この木簡の発見により、この地域の税がどのようなルートを辿って納入されたかを復元することができ、当時の納税システムを探る上でも大きな発見につながりました。

また東九州自動車道建設に先立って行われた一連の発掘調査のうち、2009年、行橋市の延永小学校付近で調査された遺跡から出土した8世紀前半の土器に「京郡物太」、8世紀後半の土器に「京都大」と墨で書かれた「墨書土器」が出土しました。どちらとも「京都郡の大領（長官）」を指すものであることや、調査の記録から、この遺跡は、京都郡の役所及び文献に登場する「草野津」という港及び運河の跡である可能性が高いことが判明しました。この「草野津」は郡の役所が隣接することから、通常、京都郡の郡司（郡の長）の管轄とみられていますが、「瀬戸内に開けた非常に重要な港」であったため、実際はみやこ町国作にその跡がみられる豊前国府の国司（現在の都道府県知事にあたる）が直轄管理する港湾施設であったものとみられています。

▲鴻臚館出土木簡（模造品）



▲延永ヤヨミ園遺跡出土「京都大」墨書土器（提供:九州歴史資料館）

平和台球場及び行橋市延永の出土資料から「京都」の文字は少なくとも1300年前から使われていたことが改めて確認できました。

かつてこの地が北部九州における政治・文化・軍事的な拠点地域であったことは、町内にみられる古墳や寺院跡、残された遺跡から読みとることができます。「歴史は繰り返される」という言葉がありますが、近い将来、私たちの住むこの町が再び北部九州の「みやこ」となる日も近い？かもしれません。またそのような「願い」が込められた町名として捉えることができれば、改めて歴史に培われた素晴らしい町の名であると感じることができるのではないでしょうか？

（井上信隆）